

ハロー フレンズ

ファイセック

FICEC

発行

ふじみの国際交流センター

Fujimino International Cultural Exchange Center

2008年 2月号 (隔月刊) 第95号

FICEC が「認定NPO法人」としての3回目の審査を通過

FICEC への寄付金は、 損金算入など優遇措置が受けられる

全国3万法人中
わずか74の
認定NPO法人

特定非営利活動法人 (NPO法人) は、営利を目的とした法人(会社)と異なり、ボランティア活動など市民の社会貢献活動のために設立が認められているものですが、その活動はもっぱら会費や寄付金で支えられることが前提となっています。そして、「認定NPO法人」というのは、租税特別措置法に基づいて、その団体への寄付金の損金算入等の優遇措置が認められた法人のことをいいます。

いわば、租税の減免措置の対象となるだけに、国税庁が厳格な基準のもとに審査して認定(2年ごとに更新審査)することになっており、現在NPO法人は3万を超えましたが、認定NPO法人はわずか74に過ぎません。相変わらず狭き門です。

ふじみの国際交流センター(FICEC)は2003年からこの認定を受けており、昨年11月にはその3回目の審査がとおり、引き続き2009年10月30日まで、寄付した方々は、寄付金控除等の優遇

措置を受けられることになりました。

NPO法人がこの認定を受けるための要件は3つあります。

(1) 広く一般から支持(寄付等)を受けているか?

過去2年間の実績で寄付金等収入金額が経常収入金額の一定以上の割合を超えているかどうかで判定されます。ただし、認定基準としては個々の寄付金はその団体の寄付金総額の5%しか加算されません。例えば寄付金総額が200万円で、ある特定の相手から100万円の寄付を受けても、加算されるのは10万円です。しかし、反対に5万円の寄付を40人がしてくれていれば、すべての金額が寄付金として算入されます。つまり、特定の団体・個人だけでなく、広く多数の人から支持を受けているかどうかなどが、認定の基準となります。

現在の判定基準は、寄付金の割合が「20%以上」となっていますが、FICECの3回目の申請では、この割合が38%でした。会員や一般市民の方々から多数の

ご支援をいただいているお陰です。

(2) 活動や組織運営が適正に行われているか?

(3) 法人に関するより多くの情報を公開しているか?

その他8つの要件がありますが、FICECはいずれも満たしているものと判定され、認定を受けました。

認定審査は、関東信越財務局の担当官による書類審査及び現地調査を受けます。会計が適正に行われているかどうか審査の重点ですが、帳簿類から電算機の元帳データを全てチェックされ、ことに第1回の申請時には不十分な箇所も多々指摘を受けました。しかし、不正処理もなく、誠実に処理されていることが認められました。審査官から懇切丁寧な指導を受けて、補足書類を提出し認定を受けることができました。第2回以降は、税理士の監事の指導もあり、容易に認定を受けるようになっています。

(文: 荒田光男)

子どもたちやスタッフと 笑顔も涙も一緒に

猪野塚 容子

センターの一事業である「ふじみの国際わいわいクラブ」の活動に関わり始めてから4年が経ちました。初めて出逢った頃、まだ小学生で幼かった子ども達が中学生や高校生となり、ジュニアリーダーとして「俺らがやるよ!」「私達にまかせて!」という頼もしい言葉をかけてくれる。低学年だった子が高学年になり、低学年の子どもの面倒をみてくれる。わいわいで初めて出逢った子ども同士が、小学校も学年も違うのに「名前なんて言うの?」「一緒に遊ぼうよ!」と、大人であるスタッフ

が何もしなくても友達になって、一緒に活動をしている。そんな子ども達の成長を目にするたびに、嬉し涙を流します。一年間を通してキャンプや遠足、運動会や野外活動などいろいろな活動をしています。活動自体が楽しいことはもとより『活動を通して子ども達とスタッフみんなが、上下関係ではなく仲間や友達となり、一緒に笑って泣いて騒いで、成長していける居場所』がわいわいクラブです。そして私は、そんなわいわいクラブに惚れ込んで活動を続けています!

世界が広がって 心地よく学び続ける毎日

豊枝 洋子

縁とは不思議なものです。約6年間の名古屋生活から戻って、旧知の石井さんに挨拶に来た筈が、そのままセンターに停まる事になるうとは夢にも考えていませんでした。何に魅かれたのかは自分でも解りません。名古屋で障害のある孫の世話をしてきたので、社会的に弱者の立場の人たちに孫を重ねたのかもしれません。

センターに通うようになって、多くの国の人たちと触れ合う内に、自分が少しずつ変化しているように感じます。テレビのお守りをしてきた毎日から、センターで必要と思われる外国語に興味湧き、更に自分の目で海外を見たくなり、私の世界が広がりつつあります。

センターで親しくなったOさんと、フランス旅行をしたのは去年の10月末のことです。世界遺産を見に行ったのですが、目に印象的だったのは多民族国家としてのフランスでした。路上で観光客相手に物を売っているのは、

殆んどアフリカからの移民のようでした。以前、フランスで多民族国家の格差による暴動のニュースを見た時には実感が湧かなかった出来事も、現地での人々の生活を見ると納得してしまいました。共生の難しさを感じると共に、日本も今のまま外国人との共生について真剣に取り組まないと、同じような暴動が起こらないという保障は無いと思いました。センターの掲げる共生を目指す事は、とても大切な事だと感じました。

長い活動の間には、私の想像も出来ない困難もあったと思います。多くの壁を乗り越える度に、人との繋がりが深くなるのでしょうか。不惑の歳を遙か昔に過ぎたのに、未だに人生の霧の中を彷徨いながら、自分の道を歩いています。しかし、今の自分はとても心地良い事だけは確かです。これからも皆様の後姿を見つめ、学びながら続けていけるよう努力したいと思います。

活動を支えながらセンターライフを エンジョイしている野沢弘子さん

スタッフの野沢弘子さんに、「ハローフレンズに載せるので自己紹介文を書いてくれませんか」と頼むと、「私はセンターでみなさんのお手伝いをするだけでいいんですからと…」と恥ずかしそうに笑っている。そこで、周りのスタッフが野沢さんについて感じていることを一言ずつ書くことにした。

「あたたかい心の人、質素、勤勉、謹懇」と評価したのは中国の司(スー)さん。

「大掃除の日、みんなに指示しながらきびき

びと働いていた」と小原さん。

「明るくて笑顔を絶やさない人、だんな様をととても大切にしていること」に己を反省している女性スタッフも多い。

金曜日の当番の仕事はもとより、中国語教室や英語教室に参加してセンターライフをエンジョイしている様子がわかる。これからもずっとセンターに関わってもらいたい人である。(文:石井)

編集の仕事を通じて 架け橋になるような活動を

福田 雅伸

ふじみの国際交流センターのHPをはじめて見たのは今年の1月。在日外国人に関する情報をインターネットでいろいろ調べていたら、偶然見つけました。

さっそく中を見たら、「ハローフレンズの編集委員を募集中」という文字を発見。かねてから国際交流という活動に関心を持っていたので、ぜひ、編集作業に参加したいと思いました。

私の周囲を見渡すと、行きつけのカレー屋のスタッフはインド人、焼き肉屋のオーナーは韓国人、会社近くのコンビニの店員は中国人、そして職場にはフィリピン人……。そうそう、道に迷った外国人に英語で話しかけられ、ボディランゲージで目的地を教えたこともあったかな。

だけど、案外、在日外国人とプライベートな関係でお付き合いをしている日本人は少ないかもしれません。たとえば、私と在日外国人との交友関係を振り返ると、とても身近な存在にもかかわらず、どこか遠く離れた存在

だったともいえます。その一方、なにかの「きっかけ」で会話を交わすと、あっというまに仲良くなるのではないのでしょうか。そして、その「きっかけ」を得たら、在日外国人と日本人との懸け橋になるような活動がしたいと考えるかもしれません。

私は一編集者として雑誌の制作などに携わってきました。今後も一編集者として経験を積み重ねていきたいと考えています。目標は、「編集」という仕事を通じて、在日外国人と日本人との懸け橋になるような活動すること。しかし、求人情報で仕事を探しても、思い描いているような仕事は見当たりませんでした。

思い悩んでいた矢先に『ハローフレンズ』の活動を知りました。今後、『ハローフレンズ』の制作を通じて、多くの在日外国人と出会い、その出会いからなにかが生まれるのではないかと考えています。今後ともよろしく願います。

日本語教室

外国人支援の一環として開催

毎週木曜日 10:00 ~ 12:00

受講料：無料

「病気がち」と「忘れがち」、この「がち」は、どう違うんですか。突然の質問に、即答できる方は、かなりの日本語指導に経験のある方とお見受けします。

ここセンターの日本語教室は、生活レベルの日本語を学んでいただくために、ふじみの国際交流センターができたと同時に無料で開かれました。そう、もう10年以上にもなるんですね。

基本は毎週木曜日の午前、年中無休で始めました。教室が出来たころは、受講者も就労者、就労希望者、主婦、子ども、そしてさまざまな国からの人々で構成されていました。平均すれば8人から12人くらいだったでしょうか、まさに国際の名に値するバラエティーに富んだ教室でした。しかし2004年、出入国管理・難民認定法が改定されました。厳しい罰則が設けられることにより、多くの就労希望者も帰国するようになりました。そうしたこともあり受講生は減少し、現在で

は4~5人といったところですよ。

日本語指導には直接方式による文法積み上げ方式が一般的です。センターもそうした指導を導入してきました。しかし基本は生活を維持してゆくための日本語です。話すことが中心となるよう目指しています。最近はお子さんを連れた主婦の方が多く、教える側のボランティアの方も主婦のご協力が圧倒的に多くなっています。やはり生活中心となれば主婦ということ、馴染みやすいからなのでしょう。日本語レベルの熟達度も高くなり、話題とするテーマも広がってきました。

この傾向は2市1町にあるそれぞれの日本語教室でも同様のようです。そこで本格的な日本語を学べる環境を作るべきではないかという意見も出始めています。近い将来、有料の「日本語教室構想」も持ち上がっています。センターの日本語教室が、国際間の友情の架け橋に少しでも役立てられたらと、常に思いを馳せております。(岩田)

中国語教室

中国・台湾の人が教えてくれる

毎週金曜日 10:00 ~ 12:00

受講料：会員200円・非会員300円/回

(季節によって冷暖房費+100円)

いつも、中国・台湾出身の方、3~4人が講師として参加してくれます。

先生の人数によって、初級・中級・上級に分かれてレッスンしています。教室というよりサロンのような雰囲気、日本語・中国語を交えておしゃべりに花が咲くことも。講師の先生は全てボランティアで来てくださって

いるので、年に2回お礼を兼ねた食事会を開いています。

テキストだけでは学べない中国の様子や習慣を直に学べるのが、この教室の良いところです。また、先生同士の交流の場にもなっているようで、ネイティブ同士の会話を傍で聞いているだけでも勉強になります。(高橋)

韓国語教室 月曜クラス

初級の単語、文法、会話を学ぶ

毎週月曜日 10:00 ~ 12:00

受講料：1回 500 円

初級のテキストを使い、単語、文法、会話のフレーズを取り入れながら学んでいます。上達の歩みはゆっくりですが、韓国語を学ぶのが楽しくて仕方ない人たちばかりです。先生が韓国人なので、韓国の習慣、韓国人の考

え方なども聞けます。あせらずにゆっくりと、何度も何度も同じことを繰り返しながら同じ単語を何度も聞き、言葉として出しながら一つひとつ自分たちのものにしようと頑張っています。(武田)

韓国語教室 水曜クラス

韓国の話題に花が咲く会話教室

毎週水曜日 10:00 ~ 12:00

受講料：1回 1000 円

水曜日の韓国語教室は、主に会話中心の教室です。先生の柳ザヒさんは韓国の方ですが、日本への留学経験もあり、更にご主人が日本人なので日本語も上手ですから、初めての方でも心配はありません。常時6~9名位の人達が、楽しく、時にはオロオロしながら生きた韓国語を学んでいます。

勉強を始めた動機は、人それぞれです。お子さんが韓国の方と結婚されている方、韓国の歌に興味のある方、そして最も多いのは韓国ドラマが好きな方ようです。

授業料は参加した時に、1回につき1000円を支払うというシステムで、月謝ではないの

で、都合の良い時に参加出来ます。勉強法は、その時々テーマに沿ってなるべく韓国語で話し、それを先生が聞いてアドバイスをしたり質問されたりという形です。時々、韓国の家庭や文化の話が混じったり韓国芸能界の話もして下さいます。この脱線した時が結構楽しくて、急に会話に弾みがつき、賑やかになります。先日は柳先生から、本場のキムチの作り方を教わり、試食会をしました。楽しみながら生の韓国語に触れ、平均年齢?十歳のパワーで頑張っています。1歩進んで2歩下がりがりながら、それでも仲間と楽しく学んでいける教室です。(豊枝)

英語教室

火曜クラス

毎月第二、第四火曜日 13:00 ~ 15:00

受講料：月 2000 円

水曜クラス 毎週水曜日開催

Aグループ 19:00 ~ 20:00

Bグループ 20:00 ~ 21:00

受講料：4週のと看 1ヵ月 4000 円

5週のと看 1ヵ月 5000 円

火曜クラスは初心者対象、水曜クラスは「ロールプレイによる会話の練習」「発音、文法など基本的な勉強」が主な内容です。

(阿澄)

子どもとともに育つ親の会

新年最初のイベントは「美味しい国際交流」

ブラジルの家庭料理と甘～いお菓子を作りました

イベントの様子や告知などはブログをご覧ください。 <http://oya.hansokuya.com/>

新年最初のイベントは「美味しい国際交流」。
参加者は中国人・韓国人・ブラジル人・日本人の合計17人。初参加の方も2組来てくれました！ありがとうございます。

今回はジアネさんを講師に迎え、ブラジルの家庭料理と甘～いお菓子を作りました。(文：高橋)

今回のメニュー

フェイジョン：FEIJAO (家庭用)

肉じゃが (ブラジル風)：BATATA COZIDA

ブリガデイロ：BRIGADEIRO



ブリガデイロは、ブラジルではお誕生日などによく子どもたちと一緒に作るお菓子だそうです。手でコロコロと丸めるだけなので、小さな子どもでも作るのが嬉しいところ。子どもたちは「ご飯の

あとで食べようね」というママの言葉も耳に入らない様子で、自分で丸めたブリガデイロを、その場で嬉しそうに口に運んでいました。

お料理はどれも素材の味が引き立ったシンプルな味付けなので、0歳の赤ちゃんも美味しそうに食べていました。

昨年の4月からイベントを毎月開催にしたことで、企画や準備は大変になりましたが、毎回参加してくれたり友達を誘って来てくれる方がいること、参加している子どもたちの成長が見えることが大きな楽しみになっています。(夏にはハイハイしていた子が、今月は上手に歩いてました!)今年もあと2回イベントがあります。興味がある方は、一度遊びに来てください。お待ちしております!(ボランティアスタッフも大歓迎です)

今後のイベントの予定

2月19日(火)「丸いものde遊ぼう!」

場所：ふくとぴあ児童館

3月11日(火)「親子deスクラップブック」

場所：富士見市ぱれっと



ブラジルのお菓子・ブリガデイロ



ブラジル風肉じゃがとフェイジョン

子どもたちを教えるボランティア大募集 !!

毎週土曜日 10:00 - 12:00

国際子どもクラブで学習する子どもたちは、年齢、滞在年月、日本語レベル、学習したいことなどさまざまです。ひとりひとりのニーズに対応するため、基本的にマンツーマンで指導しています。ところが、ここ最近、学習者が急増したため、そのような対応が難しくなってきました。常時ボランティアを募集していますが、今回、とくにご参加を募りたいと思います。

教える内容は、日本語や教科の学習で、具体的には、漢字の書き順や、算数の文章題など幅広く、日本語を教えた経験がない方でも、お気軽にご参加ください。

現在、14人ほどの子どもたちが対象で、それに対応するボランティアが10人ほど。しかし、全員が毎週通っているわけではなく、1回に子どもたち4 - 8人に対して3 - 5人くらいのボランティアが対応しています。

ボランティアは、大学生、主婦、会社員や定年退職をされた方など、幅広い年代のさまざまな方がいます。毎週参加から、数ヶ月に1回など、それぞれのスケジュールに合わせて参加しています。みなさんも、ぜひご参加ください。お待ちしております。

教えるより教わることが多く 子どもたちからパワーももらって

後藤 敏枝

私はまだこの「ふじみの国際交流センター」(以下、センター)に関わっていなかった頃は、「ボランティア」というのは特別な人、暇で経済的に余裕があってIQが高い人が、特別なことを誰かにやってあげているものだと思っていました(ごめんなさい)。

この考えが変わったのは、私の短大時代の友人Kさんがセンターに十数年関わっていて、あるきっかけでその関わり方についての話を聞いてからです。Kさんは、自分のことを差し置いて、外国から来た言葉の分からない人に言葉を教えたり、役所に一緒に出向いたり、相談を聞くという関わりをしていると聞いて、私のボランティア像を覆す活動に衝撃を受けました。

そこで、子どもにも手が掛からなくなったこともあって、Kさんほどには出来ないけれど、少しは社会に今までお世話になった還元をしてみようかなと、ほんの軽い気持ちからセンターにボランティアとして関わることにしました。

センターにかかわりはじめてから、まず私の出来ることは何だろうと思い、片っ端から時間の許す限り首を突っ込んでみて、「生活相談」「日本語教室」「取

り出し授業」「国際子どもクラブ」やDVの勉強会、資料作り、研修、会議と何だかよく分からず出席だけはしました。特に「取り出し授業」「国際子どもクラブ」に関わっていく内に感じたことは、教えるより教わっていることの多さ、子どもからエネルギーやパワーを受け取ることの楽しさです。

生活に無理がないように、今は土曜日の午前中だけ「国際子どもクラブ」に関わっています。もし、ボランティアをやってみたいと思う方がいらしゃいましたら、その時が行動を起すチャンスです。スタッフは優しい人ばかりで、その中の「国際子どもクラブ」は、現在男女20歳代前半から60歳代までで堅苦しい雰囲気ありません。日本語や勉強は、自分の出来る範囲で充分教えられます。分からないことはベテランのボランティアの方に聞いて進めていけばいいし、都合で休みたい時は毎回出欠のメールに返事を入れるだけで大丈夫です。

一度気軽に参加をしてみませんか? ぜひ私達と一緒に「国際子どもクラブ」を楽しいものにしていきましょう!!

センターの活動をご支援ください
会員・賛助会員・寄付のご案内

活動を担う会員.....正会員

正会員は、スタッフなどとして活動を担っていただく会員です。この会員は、総会などでの議決権をもちます。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

センターを財政的に支える会員.....賛助会員

賛助会員は、センターを財政的に支えていただく会員です。総会等での議決権はありませんが、センターのイベントなどのご案内や、機関誌をお送りいたします。

年会費：個人1口3,000円、団体1口10,000円

会員、賛助会員にはこの機関紙をお送りします

郵便振替口座：00110-0-369511
 口座名：ふじみの国際交流センター

ご寄付をいただいた方々

ご支援ありがとうございます

2006年4月～(50音順・敬称略)

穴沢エミリン 伊藤智明 伊藤真弓 いも煮会 上島直美 小澤ヴィクトリア 小原富明 オムテック(株) 葛西敦子 加藤久美子 金子忠弘 上福岡教会 候 国際ソロプチミスト 後藤泰弘 駒形一夫 菅山修二 鈴木譲二 堰代仁子 染谷英子 高橋郁子 高橋智子 武田和子 立麻医院 寺村壁如 中嶋恵津子 萩原千代子 長谷川美紀子 ハナロウ会 羽石電気 半田栄子 東入間防犯協会 深見水季夫 三澤真理 村上省三 百瀬 滉 森田信子 矢野やすこ

ご寄付は税金の控除や損金参入の対象となります

ふじみの国際交流センターは、国税庁からの認定を受けた「認定NPO法人」ですので、ご寄付は、法人であれば損金参入が認められ、個人であれば寄付控除の対象となります。

ふじみの国際交流センター (FICEC) のスクール、クラブ

<p>日本語教室 「生活に役立つ日本語の習得」を目標に、日本人が日本語で教える教室。 毎週木曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>国際こどもクラブ 日本語が不自由な子どもたちに日本語や勉強を教えます。 毎週土曜日 午前10時～12時 受講料：無料</p>	<p>パソコン教室 外国人、日本人にパソコンの技術指導をします。 月2回土曜日開催 午後1時～3時 受講料：日本人1000円 外国人300円</p>	<p>国際スポーツクラブ 上福岡の中学校体育館でバスケットボールを楽しみます。 毎週日曜日 午後7時～9時半 参加費：無料</p>
<p>中国語教室 学習者の中国語能力により、初級、中級上級に分かれて学習します。 毎週金曜日 午前10時～12時 冷暖房1回200～300円</p>	<p>韓国語教室 韓国語初級講座。韓国人の先生が、やさしく丁寧に教えてくれます。 毎週月曜日、水曜日 午前10時～12時 1回500～1000円</p>	<p>ポルトガル語教室 ブラジルで通訳の仕事をしていただいた方が指導してくれています。 毎週火曜日 午前10時～12時 受講料：1回1000円</p>	<p>英語教室 グループレッスンです。 毎週水曜日午後7時～ 受講料：月4回4000円 第二、第四火曜日 午後1時～3時 受講料：月2000円</p>

編集後記

あなたも編集委員会に加わってください。大歓迎です。

国際子どもクラブだけではなく、編集委員も大募集中！そのほかにも、紙面で紹介してきたように、さまざまな活動をしています。もうすぐ春です。新しいことを始める季節です！ボランティアを始めてみませんか？(上原)

こんにちは！少し前の話題ですが、国際スポーツクラブやハローフレンズの編集スタッフと一緒にしている中国人留学生の仲間達と編集長宅におじゃまし、みんな

でスキヤキ鍋をしました。僕自身、鍋を囲んで食べるのは久しぶりでしたが、中国人留学生の仲間は初めてだったようです。うれしそうにそして美味しそうに食べる姿につられ、お腹がへってなかったのに、かなり頂いてしまいました。楽しいご飯は、いいもんだと改めて感じました。(篠島)

仕事としては、出版畑で雑誌や書籍づくりをずっとやってきたおかげで、こういう

機関誌編集は得意な分野だし、最近ではNPOなど団体や地域サークルのためのチラシづくり講座などに、講師として呼ばれることも出てきた。チラシなどを作るときのコツは、とにかくタイトルとして「キャッチフレーズ」を考えて表示すること、他のすぐれたチラシや広告などを参考にしてマネすること。優れたアーティストは、人の優れたところを取り入れること(マネ)ができる人であることを知るべし。(内藤)

編集スタッフ

発行者：石井ナナエ(センター理事長)
 編集委員(50音順)：阿澄康子、荒田光男、岩田仁、石原怜実、上原美樹、王祺、王賛博、川田明香、黄耀潤、斉藤恵子、篠島幹昌、内藤忍、長谷川正江、福田雅伸、山崎友理

特定非営利活動法人ふじみの国際交流センター

〒356-0004 埼玉県ふじみ野市上福岡5-4-25
 Tel:049-256-4290 Fax:049-256-4291
 生活相談専用電話:049-269-6450